

令和４年度 南房総市総合計画審議会第１回会議 会議要録

１．日 時：令和４年５月２４日（火） 午後２時００分～午後４時３０分

２．場 所：南房総市役所 本庁舎 別館１ 大会議室

３．出席者：総合計画審議会委員（出席１４名、欠席２名）

南房総市：石井市長、嶋田副市長、三幣教育長

高梨総務部長、相川保健福祉部長、西田市民生活部長、小野農林水産部長、石井商工観光部長、中山建設環境部長、山野井病院事務長、眞田水道局長、小高会計管理者、青木議会事務局長、水島教育次長、企画財政課（小澤課長、中村課長補佐、押元係長、堀江主事）、職員ワーキングチーム（加藤主任保健師、稲葉主任主事、鈴木副主査、渡辺主事）

コンサルタント：株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング

４．次 第：１ 開会

２ 会長あいさつ

３ 市長あいさつ

４ 議 題

（１）役員選任

①副会長の選任について

（２）報告

①市民ワークショップ開催結果について

②職員ワーキングチーム中間報告について

③市民意識調査結果について

④前期基本計画の総括について

（３）議事

①後期基本計画序論と基本計画の構成について

５ その他

（１）今後のスケジュールについて

６ 閉会

５．配布資料：資料１ 市民ワークショップ報告書

資料２ 職員ワーキングチーム中間報告

資料３ 市民等意識調査報告書

資料4 前期基本計画総括報告書

資料5 後期基本計画序論と基本計画の構成

資料6 今後のスケジュール

6. 審議概要

《鈴木委員及び峯委員に委嘱状の交付》

1 開会

事務局：時間となりましたので、始めさせていただきます。皆さまにおかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は本日の会議の進行を務めさせていただきます、総務部企画財政課、課長の小澤と申します。よろしくお願いいたします。会議に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

《資料の確認》

事務局：欠席委員のご報告を申し上げます。本日お配りしてございます、審議会委員の名簿をご覧ください。押元委員、川名委員におかれましては、ご都合により欠席となっております。また、藤井委員におかれましては、ご都合により途中退席される予定となっております。それでは、ただいまから令和4年度南房総市総合計画審議会第1回会議を開会します。

2 会長あいさつ

事務局：続きまして、次第の2「会長あいさつ」に移ります。鎌田会長よろしくお願いいたします。

会 長：皆さん、こんにちは。本日は、温かいというより、暑いと言える日で、良い季節になってきました。前回お集まりいただいたのが令和3年11月、それから半年経過しました。その間、市民意識調査、市民ワークショップ、職員ワーキングチームの活動等、色々なことを積み上げてきました。特に、市民ワークショップについては、ここにいらっしゃる委員の方々にもご出席いただき、大変有意義な成果になったと伺っております。後ほど、ご説明いただくこととなりますが、ぜひお気付きの点等、肌感覚でお感じになったことを共有いただければと思います。本日の議題ですが、市民参画で得られた様々な課題や成果を精査していただきながら、後期基本計画の方針を出していく段階になってきます。資料が膨大になり

ますので、報告事項で1時間、議事で1時間程度ご議論していただきたいと思います。限られた時間になりますが、できるだけ多くの皆さんにご発言いただければと思っています。初回でご紹介がありましたが、年間出生数が100人を切っており、20代から30代の若い人の人口が、目標4,800人としていたところが3,800人と滞っています。象徴的な数字ではございますが、その辺りをどのように、皆さんと力をあわせて改善していくか、という議論になるかと思います。私の職場は大学ですが約1万人の学生がいます。18歳から26歳までの年代になりますが、そのような若い人に常に注目してもらい、常に受けてもらうことを考えると、大学にも変化が求められます。大学と市町村は異なるかもしれませんが、私も学識経験者という立場よりかは、そのような大学生活の経験を踏まえて、微力ながら進めて参りたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 市長あいさつ

事務局：続きまして、次第の3「市長あいさつ」に移ります。石井市長よりご挨拶申し上げます。

市長：各委員の皆さまには、お忙しいところ、ご苦勞様でございます。また、本日は総合計画の審議にあたりまして、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。総合計画は、市の様々な事業を進める上での大本となる計画になります。色々な課題があるわけではございますが、先ほど鎌田会長からお話があった通り、大学も変化し続けなければならない時代です。市の課題も刻々と変化しており、課題を解決する上では、柔軟かつ迅速に対応していかなければならないと思っています。そのようなことに注意しながら、様々な事業の執行を心掛けていきたいと考えています。本日の資料をご覧くださいまして、現在、市民ワークショップ・市民意識調査等を踏まえて、仕事・子育て・移住定住・暮らしというカテゴリーで、取りまとめを行っているところとなります。皆さまから有意義なご意見をいただき、しっかりとした総合計画を策定していければと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

4 議題

事務局：続きまして、次第の4「議題」に移らせていただきます。議事の進行につきましては、南房総市総合計画審議会規則第5条第1項の規定により、会長が議長を行うことになっておりますので、鎌田会長、よろしくお願いいたします。

会長：それでは、議長を務めさせていただきます。本日の出席委員は14名です。半数以上の出席がありますので、総合計画審議会規則第5条第2項の規定により、会

議はここに成立いたしました。ご質疑等がございます方は、挙手をもって、議長が指名した後お名前を言っていただいてから、マイクを使って発言をしていただきたいと存じます。また、南房総市総合計画審議会規則第7条の規定により、先程紹介しました職員にも説明員として出席していただいております。

(1) 役員選任

会 長：それでは早速、議事に入ります。議題「(1) 役員選任 ①副会長の選任について」説明させていただきます。南房総市総合計画審議会規則第4条第1項の規定に、「審議会に会長及び副会長1人を置き、それぞれ委員の互選により選任する。」こととされております。副会長の選任方法を含めまして、ご意見をお伺いしたいと考えます。いかがいたしましょうか、ご意見をお願いします。

委 員：事務局案がありましたら、お示しいただくことを提案します。(鈴木貴委員)

会 長：ただいま、委員から事務局の案はありますか、というご意見がありましたので、事務局から提案してもらうことでいかがでしょうか。

各委員：(異議なし)

事務局：それでは、ご提案させていただきます。副会長には、前回の審議会でも市議会議員の飯田委員を選任させていただきましたが、皆さまから特にご意見がなければ、引き続き継続性を鑑みまして、市議会議員の峯委員に引き続きお願いできればと、ご提案いたします。

各委員：(異議なし)

会 長：それでは異議なしということで、副会長を峯委員にお願いすることで、ご承認いただきました。峯委員は副会長席にご移動をお願いします。

会 長：それでは、ご選任されました峯副会長よりご挨拶をお願いいたします。

副会長：ただいま副会長に選任されました、市議会委員の峯と申します。ご意見をまとめあげていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 報告

会 長：それでは、早速議事に入ります。報告の「(2) 報告 ①市民ワークショップ開

催結果について」を議題とします。事務局より説明をお願いいたします。

《コンサルタントより説明》

会 長：ありがとうございました。ご報告いただきましたが、ただいまの説明について、ご不明な点等がございましたら、ご質問をお受けしたいと存じます。いかがでございますでしょうか。

会 長：事前に情報をいただきまして、審議会委員の何名かは市民ワークショップにもご参加されたと伺っております。鈴木委員、白井委員は子育て班、藤井委員、岡本委員は仕事班にご出席いただきました。ご参加された際の感想や雰囲気等ございましたら教えてください。

委 員：私は第2回目から子育て班のワークショップに参加させて頂きました。グループの中では、子育てのどの部分をターゲットにするかについて、まず話し合いました。最終的には、市が進めている公園整備について、市民の考えを取り入れていただきたい、市民にとって本当に必要な公園を考えていきたい、というリクエストが出ました。私は千倉在住ですが、旧隣町である白浜町の高校生の親が、バスの料金が安いという理由で、毎日、高校がある館山まで交代で送迎をしている、状況があると伺いました。旧隣町に住んでいても、私たちが知らない課題や現状があるという事を知ることができました。中学校では、統廃合の話が進んでいると思いますが、高校生たちの保護者は子育ての悩みや課題を抱えていて、地域課題として考えて目を向ける必要があると思いました。（鈴木貴委員）

会 長：市民ワークショップを通して、なかなか顕在化されない課題が見えてくるというご指摘だったと思います。ありがとうございました。

委 員：今回、私は仕事班に参加し、お話をさせていただきました。仕事、子育て、移住・定住、暮らしの4つのテーマはどれも生活に欠かせない部分だと思いました。それらを良くすれば、市民生活の向上に繋がり、最終的には人口減少の抑制になると印象を受けました。特に仕事は、他のテーマとの協働部分が大きいいと感じました。仕事班の中では、やはり南房総のよいところが知られていない。市でもシティプロモーションに取り組んでいますが、仕事の部分でも南房総らしさ、副業などの小さい仕事を周知していくことが大切だと感じました。最終的に、マッチングに繋がればよいという話がありましたが、市内には大きい事業者がありません。その中で、南房総市ならではの小さい事業者を増やして、皆さんが関わっていけ

るとよいと感じました。(藤井委員)

会 長：ご指摘いただいたように、4つのテーマに分かれて話が進みましたが、他テーマと一緒に考えていくことが重要というご指摘でした。

委 員：私は子育て班に出席をしました。まず、この市民ワークショップという機会について、大変有意義な会議だと感じました。ぜひ継続して取り組んでいけたらよいのかなと思いました。何故かと申しますと、様々なジャンルの方がご出席されて、仕事や年齢が異なり、色々な立場を踏まえて、一つのテーマについてお話できるというのは、私自身は今まで経験が無かったので、“何となく”こういうものが欲しかったという印象でした。その“何となく”が、皆さんもお感じになっていたのだと、気づけたのが一番大きいところだったと思います。今回、このような提案書に落としていただいて、具体的なアクションに繋がっていくように感じるので、是非継続して取り組んでいただけたらと思います。子育て班については、先ほど鈴木委員からご報告があった通り、この地域に公園が無くて、子育て世帯からのニーズが高いというところが、深堀りしてお話できたと思います。公園は公共のものなので、理想を求めれば求めるほど、その後のコスト管理など現実的なところも考えないといけません。ただ公園が欲しい、ということだけでは無くて、どうしたら実現していけるのかを市民や行政の皆さんも一緒に考えていく必要があると感じました。(白井委員)

会 長：ありがとうございます。色々な気づきがあり、大変よい企画だったとのご感想でした。

委 員：私は藤井委員と同じく、仕事班で参加させていただきました。白井委員と同様に、普段お会いすることがない職業の方々とテーブルを一つにしてお話することができ、新しい気づきをたくさん得ることができました。私の仕事は農業なので、仕事と暮らしが一緒になっています。暮らしの中に仕事がある。そこには当然、定住の話も出てきます。仕事を普段から子どもに見せるというのが子育てにもなりますし、なかなか4つのテーマを切り分けて話すことが難しかったと思います。その中で、この地域で仕事を残していく、創っていく、ということが大切になります。企業を誘致して働ける場を作ることも大切ですが、自分で起業して、小さいながらも仕事をしていき、その中で若い人を一人でも多く雇用していく、そのような人材を長い時間をかけて、子どものうちから育てていくことがこの地域にとっては大切なことだと思います。(岡本委員)

会 長：ありがとうございました。仕事という側面だけではなく、それが子育てや暮らしに繋がってくる、いろいろな視点を与えてくれるということだったと思います。ただいま、市民ワークショップにご参加された方々にはご意見を頂戴しましたが、他に何かございましたらご意見・ご質問等よろしくお願いいたします。

会 長：質問がないようですので、以上で質疑を終了いたします。以上で、報告の「(2) 報告 ①市民ワークショップ開催結果について」を終了いたします。

会 長：続きまして、報告の「(2) 報告 ②職員ワーキングチーム中間報告について」事務局より説明をお願いいたします。

《職員ワーキングチーム子育て班より説明》

会 長：職員ワーキングチームの説明が終わりました。ご質問・ご意見等をお受けしたいと存じます。何かございますでしょうか。

会 長：私から1つ質問があります。市民ワークショップの意見を踏まえて、今回の提案をご検討されたということで、横ぐしを指すことで、様々な発見や気づきがあったかと思いますので、教えてください。

職 員：子育て経験がある人となない人で立場が異なり、意見交換をする中で、自分が気づかない点について新しい視点・発見がありました。私自身が健康推進課に所属しているので、生まれてきた赤ちゃんやお母さんを対象に業務をすることが多く、私の仕事はいつも市内在住者向けの仕事になります。今回、職員ワーキングチームの一員として参加したことで、市内に移住・定住する前に人をどう呼び込むか、定住を促進するか等、新しい視点で考えることができたので、視野が広がったと思います。(子育て班 班長 加藤主任保健師)

会 長：続いて、移住・定住班の担当者より、ご説明をお願いいたします。先程と同様に気付きや感想についてもお聞かせください。

《職員ワーキングチーム移住・定住班より説明》

職 員：参加させていただいて、他の班の皆さんの発表を聞いて、移住は他の仕事、子育て、暮らしのテーマとも関わりがあることを改めて気づくことができました。仕事について情報発信しないと南房総市での働き方がイメージできない、子育てし

やすい街ということをしっかりプロモーションする必要があること、情報の発信も責任をもって届ける必要があること等、気づきを得ることができました。(移住・定住班 前班長 稲葉主任主事)

会 長：続いて、仕事班の担当者より、ご説明をお願いいたします。

《職員ワーキングチーム仕事班より説明》

職 員：市民ワークショップに参加しての気づきとしては、先ほど藤井委員からご指摘があった南房総市の仕事を意外と皆さんが知らない、副業も大事、マッチングできればよい、岡本委員からご指摘の人材確保も大事だが、仕事を生み出す人材も大事というお話がありました。議論の中で様々なご意見を聞かせていただいて、そのような受け皿づくりがそもそも無い、という気づきがありました。(仕事班 班長 鈴木副主査)

会 長：続いて、暮らし班の担当者より、ご説明をお願いいたします。

《職員ワーキングチーム暮らし班より説明》

職 員：ワークショップに参加したことへの気づきですが、職員がより市民目線でもう一度自分たちの事業を見ることができた、ということが良かったと思います。また今回、自治のバックアップということで、事務局の業務を切り離してみてもどうか、というご意見がありました。まさに、仕事班の部分と重なりますが、今までボランティアのイメージが強かった自治の仕事が、小さいながらも仕事として切り出すことができるのではないかと、という可能性を共有できたのではないかと考えています。地域に生きる一市民としても、自分の子どもたちが大学に行って帰ってきたいと言ったときに、帰ってきたら大変だよとは言わずとも、帰ってきてもいいよ、と言えるような地域にしっかりと変えていくことを目指したいと思います。(暮らし班 班長 渡辺主事)

会 長：全体を通して、子育て班、仕事班、移住・定住班、暮らし班の発表についてご質問・ご意見等、何かございますでしょうか。

委 員：市の職員さんの発表も素晴らしかったです。市民ワークショップでも新しい気づきがありました、と述べている方がおりましたが、職員の方々にも新しい気づきや可能性を感じることができたというご感想があつて素晴らしいと思いました。

挨拶のところで会長と市長が、柔軟性をあげていかなければならないとおっしゃっていました。市民ワークショップや職員ワーキングチームの活動を通して、南房総市の柔軟性が上がるかな、と思いました。今回、具体的な提案や攻めている案がありましたが、これを一つでも実現していけるとよいと考えています。市長は、迅速にというところを付け加えておっしゃっていたので、早い段階で色々できたらよいのかなと思います。人口減少については日本の地域どこでも同じだと思いますが、南房総市はある意味、最先端な場所です。先程、仕事班の鈴木さんに木更津の例を出していただいたと思いますが、最先端の南房総市で実施することで、他の地域のアイデアを取り入れたり、発信できると思います。他地域のアイデアを参考にしながら後期計画に、市民ワークショップや職員ワーキングチームの提案が積極的に取り入れられるとよいかなと思います。(藤井委員)

副会長：子育て班では、白浜の高校生の通学の交通費が高いというお話がありました。15年前の話になりますが、館山で部活をしている子どもたちは朝練や部活が終わった後に、バスが運行していないという状況がありました。元からその認識で、親が送り迎えをしていたという話を聞いたことがあります。もう一つは、仕事班の発表で南房総らしい仕事という話がありました。本市は、こんなにも海があるのに、観光と農業だけの提案になっていると思います。お聞かせいただければと思います。

職員：ご指摘の趣旨が間違っていたら恐縮ですが、今回の市民ワークショップの中でも、磯遊びが危険だという話と、体験させた方がよいという話と両方向で議論がありました。磯遊びについては、体験させられる能力がある人、例えば、磯遊びを経験したことがある親や海女さんなどいるという話がありました。あくまで農業体験があって、海体験がないというお話だと思いますが、例えば、半農半Xという言葉のように、半分海女さんで、半分民宿運営をしているなど、そのようなことも含めて今回ご提案させていただきました。具体的には、農林水産課の方で、海女さん体験など、施策の中に取り入れています。(仕事班 班長 鈴木副主査)

副会長：南房総らしい仕事という意味で、海を活用したものはないのかご質問させていただきました。ご説明の通り、これは仕事では無くて、体験をもとにしたご提案ということでしょうか。

職員：南房総市の基幹産業で言うと、農林水産業と記載をさせていただいています。その中では、SAP体験や海女さん体験など、そのようなものを組み合わせて仕事を生み出していきたいと考えています。(仕事班 班長 鈴木副主査)

会 長：他にいかがでしょうか。ここで、藤井委員と職員ワーキングチームが退席となります。ありがとうございました。

《藤井委員、職員ワーキングチーム 退席》

会 長：続きまして、報告の「(2) 報告 ③市民意識調査結果について」事務局より説明をお願いいたします。

《コンサルタントより説明》

会 長：ありがとうございました。ご質問・ご意見等をお受けしたいと存じます。何かございますでしょうか。お時間も限られておりますので、この後の前期基本計画の総括、後期基本計画の構成のところで、ご意見をお伺いできればと思います。

《質問・意見なし》

会 長：続きまして、報告の「(2) 報告 ④前期基本計画の総括について」について、事務局より説明をお願いいたします。

《事務局より説明》

会 長：事務局の説明が終わりました。ご質問・ご意見等をお受けしたいと存じます。

《質問・意見なし》

会 長：この後、審議事項に入っていきますが、その中で、ご意見・ご質問等お伺いできればと思います。

(3) 議事

会 長：続きまして、議事の「(3) 議事 ① 後期基本計画序論と基本計画の構成について」について、事務局より説明をお願いいたします。

《事務局より説明》

会 長：ありがとうございました。事務局の説明が終わりましたが、今回皆さまご審議い

ただきたいメインのところになります。ご質問・ご意見等をお受けしたいと存じます。何かございますでしょうか。

会 長：まず、序論をご説明いただき、計画策定の骨子となる考え方になります。報告の部分でも触れましたが、前期基本計画の総括をまとめていただき、市民・中学生アンケートを分析して、課題を整理したという構成になります。構成について、このような形でよろしいでしょうか。

会 長：事務局のご提案、大局的な部分をお伺いして、その後に個別の内容に入っていくという２部構成で進めたいのですが、いかがでしょうか。

委 員：《意義なし》

会 長：まず、事務局案の方針で進めていくということでよろしいでしょうか。賛成の方、挙手をお願いいたします。

委 員：《全員挙手》

会 長：ありがとうございます。全員挙手いただいたということで、事務局案の通りに進めさせていただければと思います。

会 長：それでは、各委員からお気付きの点、ご意見等をお伺いできればと思います。鈴木定一委員から、全体を通してのご感想等お伺いしたいと思います。

委 員：膨大な資料の作成をありがとうございました。私事になりますが、10月に長女の子供が生まれまして、3週間前に三女の子供がこちらで生まれています。長女が2人、三女には3人子供がいます。出産前後の数か月は、子ども園等の施設でよい田舎生活を送れたようです。子どもたちは増間地区で冒険遊びをして、南房総市が好きになっていたようです。長女の旦那は都会育ちですが、三芳村の田んぼで蓮を植えて育てています。先程、公園を作る等の意見がございましたが、あまりお金をかけずに今ある自然の中で冒険的な遊びが子どもにとって必要だと思います。あるがままの南房総市の資源を活かしていけばよいと思います。（鈴木定一委員）

委 員：南房総市に住んで一番感じることは、お米を作っている方々の高齢化です。私は農業をしており、現在70歳になりますが、他の方々と比べると一番若いです。

まわりの方々は皆 80 代になっており、後継者が育っておりません。後期基本計画では、南房総市をより活性化できる計画づくりを期待しています。(青木委員)

委員：資料を拝見して、改めて私自身も課題を認識することができました。序論の 14 ページを見ると、社会福祉協議会もいろいろな取組みが必要になってくると思います。地域コミュニティ、子どもや高齢者の見守り、災害への対応も必要になります。一緒に参加しながら、私自身も一人の住民、社会福祉協議会も一つの団体として、協力しながら課題に取り組んでいきたいと思いました。中学生アンケートの結果について、自分自身も子育てを終えて、農業をしている子どもがいますが、やはり若手は収益に繋がらない、頑張っているだけど身になる取組がない、と聞いています。子育てを終えてみて感じたのは、地元で遊べる場所、集える場所、公園があったらいいなと思います。そのような交流を通して、地元を好きになってもらい、残ってもらうことが大切だと思います。事業の方では、スクラップ&ビルドで、色々なものを見直し、よいものは残しつつ、変えていけるものは変えていった方がよいと思いました。(羽山委員)

委員：市民ワークショップ、職員ワーキングチーム、市民意識調査等の報告を聞いて、策定までの流れがスムーズで、的確にまとめていたので素晴らしい報告だと感じました。特に、今後の後期計画の構成については事務局案の通りで進めていただければと思います。感想になりますが、14 ページの(2)中学生アンケートの結果部分で「南房総市では、いろいろな職業の中から自分の道を選べる可能性が少ないから」を選択した方が約 4 割となっており、個人的に衝撃を受けました。中学生の回答なので、どのような職業が世の中にあるのか、という発想が自分の両親や親せき等、身の回りの方を参考にした職業のイメージになるかと思います。南房総市にも魅力的な職業がたくさんありますが、その情報発信が中学生に対して不足しているのではないかと、思います。細かいところで恐縮ですが、職員ワーキングチームの資料の中で、木更津の事例を参考にした「みな BIZ」計画がございましたが、可能であれば地域金融機関をメンバーに入れていただければと思います。起業の相談やワンストップ窓口、事業計画等の作成などのお手伝いができますので様々な支援を行う場所として掲載していただければと思います。(出川委員)

委員：職員ワーキングチームの報告を伺いまして、改めて自分が気づいていないことがあるのだなと感じました。先程ご指摘があった白浜地区の高校生の登下校のお話は、今まで考えたこともありませんでした。子育ての世帯への補助など、住みやすいまちの部分で、身近な取組みについて考えてほしいと思います。また、大き

な公園がないというお話を聞きながら、自分が子どもの時は小学校で毎日遊んでいたことを思い出しました。最近の子どもたちは、オンラインゲームなどがあり、外で遊べる環境が無い、送り迎えが必要とのことで、なかなか難しい問題だと思います。前回会議の時に話しましたが、40年間このまちに住んできて、このまちの魅力は何だろう、と自分でもぼやけて分かりません。どのようなところに魅力を感じて移住したのか、生きた意見を移住・定住者に聞いて、活かしていただければと思います。私は医療機関で働いていますが、医療・福祉・介護の資源は潤っていると思います。一方で、医療資格を保有している人たちが少ないです。既におこなっていると思いますが、資格取得への補助、人材支援を市の方で進められていければよいと思います。（関委員）

委員：このような機会を頂戴して2点ほど感じていることがございます。1点目は、以前よりも移住される方が情報を取得しやすい環境になった分、移住者が定住に繋がらないのが現実問題として見えてきました。お試し移住で定住に結び付かないケースが多くなっています。2点目は、合併をして市民と協働によるまちづくりという中で、旧町村単位で地域づくり協議会が活動されていますが、暮らし班のワークショップを聞いて、実際に行政区の区長さんは市役所のOBが多い印象を受けました。行政区の中では担い手がおらず、運営が厳しい場所も多くなっていると感じています。発表を聞いて、ただ行政に頼りたい、というよりも切実に行政区の継続・維持を望んでおり、課題であると感じました。（鈴木貴委員）

委員：膨大な資料作成、その裏にある多大な労力、関わった皆様にお礼を申し上げたいと思います。本日のお話の中で、一番感銘を受けたのは、策定過程の中で、市民ワークショップを開催し、そこで出てきた課題やアイデアを中堅・若手職員の皆さんで結成した職員ワーキングチームが取りまとめ、市民の熱を受けた形で、自分たちの行政経験を踏まえて、施策にまで落としとしていこうという一連の流れがあることです。若手職員の熱意がこれからの言原動力になるだろうと感じています。例えば、子育て班で出ていた入学時の10万円について、とても面白い視点だと思います。南房総市の教育は、近隣市と比較しても特別支援、給食など非常に優れた取組が充実していますが、移住者の目玉となるような取組として、10万円支給はよいのではないかと、思います。さらに、南房総市へのUターン資金、奨学金を給付して南房総市で5年以上働けば返済義務を無くすなど、入り口と出口を考えた施策に繋がればよいと思います。また、市民ワークショップの仕事班の発表で「そこそこ稼げる」という言葉があり、私はすごく気に入りました。これからの時代は、がっばり稼ぐのではなく、ゆとりのある、心豊かな、自然が豊かな生活で、そこそこ稼げて、幸せな家庭がある、南房総市の暮らしのコンセプトに

なと思います。例えば、世帯年収が 300 万から 400 万でもお野菜は近所から貰いながら生活し、教育費の部分については安心できるように自治体が給付することで家庭からの支出は抑えられます。子育てに係るコストが少ない、だからこそ年収が少なくても、心豊かな暮らしができる提案をしていけるのでは、と感じました。市民アンケートの中で、自分の住んでいる場所、地区の良さを認識できていない、というのが勿体ないと思いました。18 年前に移住した当初は、この地区の農業従事者に対して感動の連続でした。素晴らしい農業技術や風景、お年寄りには知恵の宝庫で全員人間国宝でもよいと思ったくらい感動しました。この地域を作った地域の方々が、誇りを持っていただく、そのことが重要なのではないかと思います。(武田委員)

委員：このアンケートの中で、中学生が「この地域に仕事がない」という回答が多くなっていましたが、先ほどからお話がある通り、本当にそうなのか。ただ、気づいていないだけで、我々が中学生に対して情報を獲得する機会を与えられていないのではないかと感じました。民間の方々は、マーケティングなど膨大なデータから情報を提供して、子どもが仕事の情報を獲得できるように工夫しています。南房総市の最大の資源である自然について、子どもたちに適切に伝えられているのか、ということがとても大事だと思います。学校の先生ではなく、地域の大人も一丸となって子ども達を育てていく、その中に先程から指摘されているこの地域の豊かさは何なのか、ということを知り・教えることができるので、計画の重点項目として掲載してほしいと思いました。また、今回の市民ワークショップについて、私自身、大人も学べる機会として、財政状況などの情報を公開して、大人が自分ごととして町の未来を考える場ができたと思います。自分ごととして、大人も学べる機会を増やしてほしいと思います。(白井委員)

委員：本日、何度か公園の話が出てきているので、公園の話をしたいと思います。5～6 年前、幼稚園の跡地に公園を作りましょう、という運動がありました。私自身公園で遊んだ経験がないので、大人が子どもの遊び場を提供すると自分たちで遊ぶ力が無くなるではと感じており、その運動には参加をしませんでした。しかし、今の子どもたちは人数が少ないので、親御さんがどこかに送り迎えをしないと遊ぶことができない現状を知って、自分の考え方が間違っていたのではないかと反省をしました。ただ、未だに何が正しかったのか分からずモヤモヤしています。我々、南房総市は都会と比べて物質的に無いものがあります。ただ、私たちは無いなら無いなりに工夫をしてきました。物質が増えることがよいことではありません。少ないなら、少ないなりに、考えていかなければいけないことはあります。南房総市の 5 年後、10 年後を考える上で、安房全体でよい子たちを育てる、その

姿勢が大切なのではないか、と思います。合併して 16 年、今の子ども達は、旧 7 町村の垣根がありません。子どもたちは、そのような垣根がない中で育ち、この地域で成人をした後、どんな考え方で地域を見てくれるのか楽しみでもあります。無いものねだりではなく、無いなら無いなりに工夫しましょうと、私たちに提案してくれるのでは、と子ども達に期待をしています。昨日、三芳小学校の 2 年生がミニトマトを栽培するということで、ポットに苗を植える手助けしてきました。トマトは自立できませんので、ある子が苗が折れたと大騒ぎしていました。それは当たり前前で、大事なのは支柱で支えてあげることです。我々、大人が支柱になってあげて、子ども達を支えてあげることが大切だと思いました。(岡本委員)

委員: たくさんの資料を読んだ中で、私自身が困っていることと似ていると感じています。白浜の話がありましたが、中学生までは交通の不便さをあまり感じないです。高校生になった途端に不便に感じます。南房総市の企業誘致を通勤までを支援対象として補助金などを支給できないか、と感じました。私が住んでいる裏山にイノシシがたくさん生息しています。罠を仕掛けているのですが、年間 100 頭程かかります。しかし、駆除は自分でできないので、すぐに対応できるような人材を確保して仕事にできないか、と感じています。(石井委員)

委員: 市民ワークショップから課題を抽出して、事業を検討して総合計画に活かすという事で、計画に落とし込まれている印象を受けました。15 ページの移住・定住促進の部分で、他の仕事、子育て、暮らしのテーマも移住・定住に繋がっていると感じました。「子どもから大人まで誰もが心豊かにその人らしい暮らしを営む場として魅力に溢れている」と記載がありますが、移住・定住促進の中では、情報発信の部分が大きな課題ではないか、と感じています。観光協会など LINE など情報発信しており、発信する媒体で、情報をキャッチする対象が違ってくるので、動画等のコンテンツを通して情報発信をするのが一つだと思います。空き家バンクの需要が増えていますが、提供する側が少ないということがあります。提供する側の課題をつかみ取りながら、取組み自体を大きくしていく必要があります。空き家バンクの後は、魅力的な暮らし方の提案、その情報発信をしていただくことが重要だと思います。(阿部委員)

会長: 委員の皆さまには、ご自身やご家族の体験をお話いただきましたが、それぞれの職域や地域の役職など、多彩な視点からご意見をいただきました。ありがとうございます。市民ワークショップからバトンリレーで職員ワーキング、まさに協働の鏡のように感じます。色々な自治体で計画策定のお手伝いをしていますが、こ

れだけきめ細かく、地についた計画づくりはなかなか出会ったことがありません。最後になりますが、峯副会長よろしく願いいたします。

副会長：皆さんに大変貴重なご意見を頂戴しましてありがとうございます。委員の皆さまはさまざまな場所や立場でご発言いただきましたが、色々な視点で考えられているなど考えました。これだけ膨大な資料を通して、皆さまも真剣に考えていただいている中で、南房総市の人口が3万人を切らないために何が必要なのか、ということによって皆さんも見ている方向が同じなので、話をしていると近づいてくるのかなと思います。一番気になったのが仕事班の「仕事が無ければ自分で起業する」というお話です。その環境づくりのために、子どもの頃から意識づけが必要、という内容になります。職場があり雇用してもらえば安定はしています。しかし、起業をすればリスクもあり、安定とは言えないかもしれません。誰かが起業すればそこに雇用は生まれる、一人でも二人でもよいので、職場が無いことに不満を言うのではなく、自分で仕事を作れるよう大人が教えていければよいと思います。

市長：色々ご議論いただきありがとうございます。市民の皆さまを交えたワークショップに始まり、考え方を取りまとめているわけですが、このようなプロセスから、しっかりと計画に落とし込んでいければよいと思います。話は逸れますが、私は昨年から感動を与えることができる、共感してもらえる地域づくりが一番大切だと思っています。抽象的な表現になりますが、どんなことに感動していただけるか、他地域からみて共感を得られるような地域づくりをしていけば、人は集まってくると考えています。大事なことは、感動・共感、地域の人の支え合いでできる共生する社会が南房総に根付いていけば、選んでもらえる地域になるのではないかと自分の中で大事にしたいと思っています。アンケート結果ですが、年代によって感じ方が異なるため、ある程度は仕方がないと感じますが、若い人たちの感じ方を聞いていかなければいけない、捉えなくてはいけないと感じます。どんなことに共感・感動するか、ということは年代によって異なります。中学生には、仕事が無くて魅力的ではない地域と感じるかもしれないけれども、成人した時に、感性が変わってきた時に、南房総市に感動・共感できるよう振り返ることができればよいと思います。感動・共感・共生できる地域にすることで、この地域が維持できると思います。

会長：以上ですべての議事を終了させていただきます。長時間にわたり、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後ともご協力いただきますようお願いいたします。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

5 その他

事務局：鎌田会長、円滑な進行をありがとうございました。それでは次第の「5 その他
（１）今後のスケジュールについて」、事務局より説明申し上げます。

《事務局より説明》

事務局：ただいまの説明につきまして委員の皆さま方から、何かご意見等はございますでしょうか。

《質問・意見なし》

6 閉会

事務局：委員の皆さま方には、長時間にわたりまして慎重なご審議をしていただきましてありがとうございました。以上をもちまして、令和４年度南房総市総合計画審議会第１回会議を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

以上